

---

○議長（稲葉昭宏君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後 1時30分）

---

◇ 齊 藤 重 君

○議長（稲葉昭宏君） 一般質問を続けます。

通告順位4番、齊藤重君。

（8番 齊藤 重君 登壇）

○8番（齊藤 重君） 通告書に基づき、一般質問を行います。

待望の夏もいつしか過ぎ去り、本来ならばほっとしているはずが、なぜかむなしく心が重いです。

集中豪雨直撃で土砂災害の大惨事を見るにしのびがたく、身のすくむ思いでございました。ただただかわいそう、気の毒だの一語に尽きます。不幸にして亡くなられた多くの方々に謹んでお悔やみ申し上げますとともに、被害を被った皆様に心からお見舞いを申し上げます。

痛ましい惨事の教訓として痛感すること、それは、わが町は海に山にと自然の恩恵あればこそ紙一重、この現実をどうとらえるか。いつどこで起きてもおかしくない自然災害から自分たちの町をどう守るか、最小限度に食い止めるためになにをすべきかを考えたときに、土砂災害危険箇所、警戒区域の確認、周知とともに砂防工事、治山工事、急傾斜工事など防災策は今後も引き続き強化推進すべきだと考えます。

一方、直面している問題として、津波への防災、減災対策を取り上げたいと思います。3.11の東日本大震災から3年以上経過した現在、わが町の津波対策の実態は地区住民からの要望で山間の数か所の避難路の完成と事業所との避難受け入れ数か所にとどまっております。一番危険な海岸沿い、沿岸地帯江奈地区までの本町住宅街の対策が手薄、なされていない。これでよいのかと心配であります。

避難タワーについては、地域からの要望待ちで進めておりましたが、申し込みなく、唯一の西区要望が二転三転のうえに、2年越しで決定いたしました。それを受け、議会も承認、予算付けとなり、年度内の完成のはこびとなっております。

しかし、ここにきて、事業の休止とか、中止とかの文言が紙面を賑わした。思いつきで行政、議会をないがしろにした行為としか私は思いません。

この件については、同僚議員に答えておりましたが、のちほど1点2点を、当局の考えを正

したいと思います。このようなことから、今回、私の質問は、通告のとおり町の減災対策についてを議題といたしました。その1のなかで、町有地を活用して行政主導で避難タワーの設置を求めるものであります。適地としては、松崎十字の園に隣接の町有地を提言したい。介護施設の皆さんや逃げる間のない沿岸周辺地域住民が必然的に足の向く、避難可能な場所になると考えるからであります。

2つ目に松崎小学校の屋上が避難場所に指定されておりますが、屋上への出口は1か所で狭い、さまざまな状況が予測されるなかで、周辺住民が容易に避難可能とするために、校舎裏のホール1階を足場に屋上への外階段を作することを提案したい。

その3として、先行き不透明な那賀川河口津波水門建設の進捗状況はいかに。

この件については、結論のないまま時間が過ぎているように思われます。町長、絶対に造るという気構えか、それとも自然消滅とするような考えか、本音を知りたい。のちほどお聞かせ願いたい。

大きく2つ目として、水道事業、水の安定供給に向けた取り組みについてを伺います。老朽化が進む八木山水源及び三浦地区への埋設本管等付帯施設は昭和30年から40年代の整備であり、いつ破損にいたっても不思議ではない状況にあります。無駄のない財政運用で、安全供給を図るは行政の責務であります。

試掘の結果が、出るか出ないかで今の施設をそのままか、新井戸施設に切り替えるか、対応が決定づけになると考えるところでございます。

これらの問題について明確な具体的な答弁を求めて、壇上からの質問といたします。

(町長 齋藤文彦君 登壇)

○町長(齋藤文彦君) 齊藤重君の一般質問にお答えします。

1. 町の減災対策について。①「松崎十字の園に隣接する町有地に行政主導で避難タワーの建設を」についてです。

町のアクションプラン(案)では、避難タワーの建設予定数は3か所で、周りに高いビルなどの無い、避難困難エリアを対象地としています。十字の園周辺の津波避難施設としては、現在のところ東京電力松崎営業所が避難ビルとして指定されていますので、ご質問にある町有地に避難タワーを建設する予定はありませんが、状況に変化が生じた場合には、新たな避難施設を検討することになると思います。

②「松崎小学校の屋上が避難場所に指定されているが、周辺住民が容易に避難できるように屋上への外階段の設置を」についてです。

松崎小学校は、町の中心部に位置する避難ビルとして、大変重要な施設となっています。避難エリアとしても、中区、北区、江奈3、宮内など、四方から避難者を受け入れることになりますので、4か所から入れるよう進入用ハンマーを用意して、近隣自主防に周知しているところです。

外階段の設置につきましては、過去に検討した経緯がありますが、制作するとかなりの重量が建物に掛かることになり、耐震性が下がるなどの影響も考えられること。また、学校の保安上の問題も懸念されるなどの理由から断念するに至りました。

学校の保安上の問題を考慮しながら、より素早く避難できるような改善をこれからも続けていきたいと考えているところです

③「先行き不透明な那賀川河口津波水門の建設について、その後の状況は」についてです。

那賀川河口水門の建設については、昨年12月の一般質問でもお答えしておりますが、「静岡県地震・津波対策アクションプログラム2013」の整備方針で、那賀川河口水門は新設とされており、松崎海岸の防潮堤のかさ上げや粘り強い構造への改良と併せて検討が進められております。これらを実現していくプロセスとして、地域の方々にご理解いただけるよう、説明会や意見交換会を開催していくことになると思います。

現在、県において検討が進められておりますが、いずれにいたしましても県と町が互いに協力連携し、アクションプログラムに沿って事業推進を図っていく考えです。

2. 水の安定供給に向けた取り組みについて。①「新水源の確保は水の安定供給に不可欠であるが、一方で老朽化した水道本管施設等の更新も対応が急がれている。両者は、掘削による水の湧出量の有無により対応が変わってくるため、早急に掘削や湧出量の調査を行うべきと考えるがどうか」についてです。

現水道施設につきましては、耐用年数を超えた施設もあり、今後、改修費用の増加が想定されることから、改修費用、維持管理費の抑制や将来の水道事業の安定供給体制を確保するために新水源の開発は必要不可欠なものであると考えております。

新水源の開発がどうなるかによって、今後の老朽管更新計画も大きく変わってきますので、新井戸整備を行うに当たっては、先ず水源の試掘や揚水量の調査が必要となります。

新水源開発の時期につきましては、現有施設の耐用年数の残期間や財政状況等を勘案した上で検討してまいりたいと考えています。

- 8番(斉藤 重君) 一問一答でお願いします。
- 議長(稲葉昭宏君) 許可します。
- 8番(斉藤 重君) なお、関連で、さきほど前段でも言いましたけれども、西区避難タワーの件について1点2点を伺わせてください。
- 議長(稲葉昭宏君) 許可します。
- 8番(斉藤 重君) 町長に伺います。早速ですが、西区避難タワーについては、前段でも述べたとおりでございますけれども、予算付けのうえ、年度内に完成のはこびとなっておりますのはご承知のとおりでございます。当然のことながら、西区の正式な要望書または取り交わし文書、契約書等は管理されていると思いますが、その点についてどういう状況かを・・・、当たり前のことですが、ご回答願いたい。どちらでも結構ですよ。
- 総務課長(山本秀樹君) 西区の避難タワーの関係につきましては、さきほどもお答えしたとおりでございますけれども、西区の要望によって場所の選定から始まりまして、予定している場所に建てるということで、土地の取得それから地質調査それから建物の解体等を行ったところでございます。原則論としては、その流れに沿って事業を進めていくという方向性に変わりはないわけですが、さきほど来申し上げているとおり、西区の方から総会も開きまして、区民の総意ということで休止ということで検討してもらいたいという要望があがりましたので、それに沿って県と検討した結果、また回答を早いうちに出したいというような状況でございます。
- 8番(斉藤 重君) その件で、そうであるならば、一応の契約的なことがちゃんとされて、これは当然のことですけれども、一般社会においては、こういった契約を取り交わしたなかで、あれだけの事業をして、あとは建てるだけになったという状況のなかで、白紙を求めるような状況になると、契約不履行的な問題が生じてくるわけですが、そういったところを町長、どういうふうにとらえていますか。
- 町長(齋藤文彦君) 西区の避難タワーは議会の議決で進めているわけでございます。ただ、休止の状況は、居室部分や居室スペースなど、付加機能をつけた方がもっと有効的ではないかというような話ですので、松崎町としてもただの避難タワーよりもこういう付加価値のついたタワーの方が使い勝手がいいのではないかと、これは県の方に話をしているところでございます。

松崎町としては、西区の避難タワーを進めることは、西区との話し合いになりますけれど

も、進めていくということには変わらないわけです。

○8番(斉藤 重君) さきほども町長は言いましたけれども、この問題については、町の方としては、あまり直接関わることじゃないですとさきほど同僚議員に答えていましたね。そういう状況のなかで、こういった実際的に動いているわけですけども、もしこれが切り替わるような・・・、県の方の話の具合でいい話ができるよというようなことになるのかわかりませんが、相当な高額になるんじゃないかと、さきほど言うておりましたね。そういうことで、もし、ここは要望の・・・、理想ですけどね。そういう避難ビルは。でも、相当な高い額になるわけだということはさきほど言うておりましたが、そういうふうにはこんだときに、現状のこの議決されて、現状建てるばかりになっているところの対応は、相手方にリスク的なものとか、そういうものを求める状況になるんですか。そういう覚悟というより、考えをもっていますか。いかがですか。

○町長(齋藤文彦君) さきほど申したとおり、西区の避難タワーというのは、議決を経てスタートして、もう建てる段階になって、このようなことが西区の方からきたわけですけども、もし本当にこれが付加機能というのが付いて建てられるようになれば、町としてもこういうのがあるのかなと、思っているところがございます。これはいま県の方をお願いしているわけですけども、避難タワーと避難ビルというのは違いますので、非常に厳しいわけですけども、このようなことを県にはっきり聞きまして、それができなかつたら、今までどおりということを進めていければいいのかなと、思っているところがございます。

○8番(斉藤 重君) 非常に難しい問題というか、日本でも避難ビルはいくつできているのかわかりませんが、危険区域のなかで。

これが1個できて、ほかのところでもという小さい町で出てくると、町の負担もそれなりの大きなものになってくるわけですけども、私は、避難タワーで一時しのぎの命を救うという意味では、それでいいと思うんですが、こういう範囲の狭いなかでね。一時的にも。

そういう考えですけども、もしここまで来たものに対して、こういうとどまっているということに対して、非常に危惧するわけですけども、回覧板等の件もそこまで突っ込む必要はないけれども、全面的な同意じゃないようなあれもありましたけれども、なんか非常に考えさせられるところもありますけれども、そこで、総務課長に聞きたいですが、今のこの・・・あそのどぶだよね。いま対象になっている公民館ですか、あその場所で、この避難ビルに対する対応ね。立地条件的なものを県がそのなかにそぐわうのか、総務課長として、どういうふう

考えるか。あそこへ簡単に移っていくのか。いろいろネックがあるというようなところを教えてください。

○総務課長（山本秀樹君） まず、避難ビルというのは、通常皆さんの想像しているとおりの、1階部分からずっと建物がビル状に1階、2階、3階、4階というふうにあるというのが避難ビルというとらえ方をされるでしょうけれど、今回、新たにそういう避難ビルを建てるという場合に、補助をもらおうかというふうになると、津波が想定される高さ等の範囲のなかは対象外となります。要するに、約5メートル等については対象外で、避難タワー等を建てる場合は、その浸水深よりもプラス4メートルくらい余裕をもって避難場所を設置しなければならないというような形になるわけで、あそこに造るとなると約10メートルくらい、最低でも10メートルくらいの高さが必要になる。そうすると対象にならないところは建てられないということになると、高桁式の建物的なもの。要するに、わかりやすくいえば、避難タワーの下にワンスペース、居住スペースができる程度なのかなというような想像がされます。

いずれにしても、避難ビルというのは、補助対象としてはなかなかそういう津波の被る場所に新たに造るということにあっては、津波の高さよりも低いところは対象にならないということのなかだから、実現は難しいのかなという感じがしています。

○8番（斉藤 重君） 私は、こういう質問をしながらも住民の安全・安心というのは大いに心しているものでございますから、それはいいことで、できれば非常にいいんですけども、ここにきて、こういう状況で、行政、議会的なものを簡単に巻き込んだらどうか、流れを阻止するような・・・、言い方は悪いかもしいけれども、これでいいのかなという疑問があるようなことですから、一応参考に聞いているわけです。それはそれでいいですよ。そのところで、やっぱりいま工事の予定になっているところ。それはそれで時間がかかってもやるだろうと思いますけれども、白紙撤回みたいなことはないと思いますが、そんなことは大変ですけども、それをこっちに移せないかとか、そういうことの状況のなかで、ほかにあとの計画は・・・、各地にいっぱい造らなければならないところもあると思うんですが、そういう考え、具体的にあそこは必要だとかという町長の判断的なものがあつたら教えてください。

○町長（齋藤文彦君） 三省社の件ですけども、回覧板が回っているというのは、回覧板を見てわかったわけですけども、ぼくらのところは要望書として上がってきていないわけですよ。ぼくらのところには。だから、ぼくらとしては手の打ちようがないわけで。ただ、その要望書が上がってきたとしても、あんな浸水区域に避難タワーを建てるというのはちょっと無謀

じゃないかなと私は考えているところです。

それで、西区の方の避難タワーの件ですけれども、それをやるときに、避難ビルから200メートルの円を描いて、それで、どうしても空白地帯があるということで、西区と南区に避難タワーを建てるということで進んでいますので、松崎町としては、今までどおりなるだけ早く進めていきたいなと思っています。

ただ、避難タワーを建てるにしても、もしそういう集会的機能がついたものができれば最高だと思って県の方をお願いしているところですが、県の方では厳しいというようなことをいっていますけれども、ちゃんとお願ひして、できる、できないがはっきりしたら、今までどおり進めていきたいなと思っています。

○8番（斉藤 重君） 一応その件は理解できます。時間がなくなってくるので、先に進みます。

わが町の高齢化率も非常に高いということで、高齢化が高いということは必ずしもいいとか悪いとかじゃなくて、これは長生きの状態でも人間幸せでいいと思いますけれども、そういうなかで、元気な人ばかりではないということで、避難タワーというのは、身近にとか、沿岸線には必要だということから、私はこの十字の園的なものを出しているわけですが、我われも県内を議員会で24年に視察をやっておりますが、回った5か所がすべて公有地だよ。私有地の問題というのは、非常に今の西区の問題もそうですけれども、二転三転して2年もかかったというのは、なかで、そこではいろいろなネックがあったということだろうと思います。そういうことで、これだということには、公有地で適地があれば、そこに早くやるべきだ、善処すべきだということでこの本町の海岸周辺、高台からみてもタワーは必要だよと上からいつも見ているわけですが、今後は行政主導で迅速な対応を求めるわけですよ。

指摘の十字の園というのは、やっぱり場所も非常に・・・、あれからなかの人たちは、山に行くなり、元気な人はいいですが、沿岸部を眺めて相当・・・、さきほど東京電力とかいいですけど、必然的に足がすつと向くようなことをするには、一番いいところじゃないかと思っ、て、十字の園を提案するわけですよ。そういうなかで江奈からちょっと範囲が広い。足の悪い方、元気でない人はたくさんいるわけで、そういう方たちがヨチヨチでもぼちぼちでもそこにたどり着く状況を作ってやるのが、行政、町長、我われもそうですが、責務じゃないかなと思っ、うんですが、その点、もう一度教えてください。

○町長（齋藤文彦君） あの周辺には東京電力とホテルコスモスがあったわけですが、ホ

テルコスモスが取り壊されるということになりまして、あの周辺は最大浸水深4.7メートルくらいあるわけですけれども、検討しますと、この場で造るとかなんとかは言えないわけで、検討するしかないと思うわけですけれども、ただ、松崎町は避難ビルが9つと避難地域、これは地域で指定しているものも含めてですけれども、19あって、あの周辺には結構山に登る道がありますので、それなりに・・・、いいのかなというわけではありませんけれども、これからどういふうなことが起きるかわかりませんが、検討していくというようなことになると思います。

○8番（斉藤 重君） そういうことをふまえて、一番安直にできるというか、町有地というような地の利があるわけですから、やはりそれは一人でも多くの命を救うという・・・、あそこ・・・大震災の波に追いかけてられているあの状況を見ると、遅れた方がのまれている。一方先をせんで幸いに助かった方々の・・・、人間の差というものをみているわけでしょう。そういうことを考えると、やっぱり安易にあそこはだめだから、こうだからという理屈抜きで、必要なものについては、それは投資ですよ、命を救うための。将来的にも。ということで、ぼくは強調するわけです。

次は、小学校の問題ですけれども、さきほど耐震補強的な問題もあって、ぼくはこの問題については、電力、パネルの関係であそこへ多くつくったのを議会で眺めに行ったときに、その時にも言ったし、議長在職中に重要会議でも、あそこに逃げるには、住民が裏から上げるためには階段が必要だと言った覚えもはっきりしていますけれども、そのときにやっぱり重鎮になる人が「金がかかるからな」と、そこで終わったことも私は思い出しますけれども、やはりなんらかの形で、階段をつくって、耐震補強のような大きな負担的なものを考えると大変かもわからないが、それならそれで、内部の改造なり、住民が一緒になって、学校だって子どもが年中学校にいるわけじゃないし・・・、その参考とすると、NHKでやったある市町で合同訓練をやったなかで、学校を場所を選んでやったら、テレビで放映したんですが、高齢者の方は階段で詰まっちゃって、もう下が全部列をなして上がれなかったと、そこで大きな問題点として取り上げたことがありますよ。NHKでやりました。

そういうことを考えると、あれだから、これだからといって、なんらかの形で住民を救うため、命を救うためということは十分に・・・、これができなければこうじゃないかということを実際に考えるべきだと思いますけれども、その点はいかがですか。

○町長（齋藤文彦君） 檀上で耐震性が下がると、また学校の保安上の問題で断念するに至りま

したと答えたわけですがけれども、私はやっぱり先ほどいろいろ一般質問等にありますがけれども、災害にあった場合に、訓練以上のことはできないということで、この4つの入口があるわけですがけれども、そのようなこともちゃんと検証して、もうちょっとこの入口をこうした方がいいんじゃないかというようなことを考えながらやっていきたいと思っているところです。ただ、重議員のいうことはよくわかるわけですがけれども、このようなことを考えながらやっていきたいなと思っています。

○8番（斉藤 重君） 本当に真剣にやってもらいたい。それは、やっぱり命に係わることですから、千年先だ、何年先だといって、やっぱり東海地震については、もう10年前ですか、明日くる、今日くるとやりましたけれども、忘れられているような状況で今度の震災になったけれども、これはいつくるかわからないですね。安心してられないですよ。ということになると・・・、必ずしも危険をあおるわけではないですがけれども、ぼくもそう思っていますよ。だいたい個人個人で逃げるが勝ちが基本ですがけれども、「逃げたくても・・・」というヨチヨチしかできないとか、子どもたちのことを考えると、極力そういうふうにならぬように体が向いたり、体が動くような状況をつくるのが行政の責務じゃないですか。

さきほども同僚の質問のなかにもありましたけれど、介護の要支援とか、要介護というものについても、あるいは・・・、不可能のこともありますよね。ですから、自然にそういう姿になるようなことをするのが大事じゃないですか。いきなりバーンときたら、自分だけ、一生懸命逃げて命をうっちゃることはいっぱいありますよね。そういうことは基本ですので、あまり屁理屈をいってもしようがないですよ。一番逃げやすい状態をつくってやる。それしかないでしょう。その点、もう一度。

○町長（齋藤文彦君） 屁理屈をいっているわけではありませんけれど、いろいろ斉藤重君がいわれたようなことを考えて、できることはやっていくと、できないことはできないわけですがけれども、できることだけやっていきたいと思っているところです。

○総務課長（山本秀樹君） ちょっと簡単に補足をさせていただきます。補強の段階の関係ですがけれども、やっぱり建物に階段をつけるとその重力が建物にかかって、揺すられたときに、その建物、いま耐震性がある小学校の耐震性が落ちるという形になって、新たな耐震補強工事をしなければならないとかいうようなことがあって断念したということがあります。

その分、なにか逃げやすい形ができないかということで、いま東西南北からそれぞれ逃げられる方向に入口をつくっているわけで、それぞれ逃げる。訓練のときに屋上への出口が狭いと

ということで、そこは改修をして2倍の広さにして、観音開きにしてスムーズに出られるようにしたりとか、できることはやっております。これからも入りやすいような入口のつくりかたとか、その辺は検討していきたいと思っています。

○8番（斉藤 重君） そのようなことは大いに検討して、前向きにやってもらいたいと思います。

なお、さきほどいった議会の視察のときに、土肥幼稚園も眺めさせてもらうなかで、土肥の幼稚園は隣接で2階からそのまま通路で避難タワーに行くと、そういうことがあったんですね。電話で清水のうど東保育園というんですか、これは巴川の上流3キロにある。でも巴川というのは溪流の落差がなくて、結局3キロあっても津波が押し寄せる可能性が十分あるわけですね。ですから、そこから保育園のベランダを利用して、下から屋上へつくったと、保育園児は140名、120名・・・、そのタワーは一般住民400人が上れるものを造った。そういう例もあるんですよ。これはのちほどの水門の件とも絡むわけですが、こういうところをいっぱいやっているんですよ。ですから、十字の園のことをいうと、あれだけの施設で、やっぱり不自由な人たちがあつたりするなかで、近くに・・・、それを考慮してやるなり、彼らから金をとるとらないじゃなくて、施設には2階から廊下でもつくって渡れる。例えば、そういうジョイント式のものだってできるじゃないかと、そんなふうにはぼくは考えるわけですよ。これは、命を守るというのはそこにあるわけですね。それをやるために・・・、もしかのときにはそれで結構効果があるということを見ると、そういうことも考えてもらいたい。そういうことで、あそこを提言しているわけです。それも頭に入れておいてください。

伊豆地区は特別警戒指定区域というので、補助体制もある程度上回っていると思いますよね。そういうことも考慮しながらやってください。

次に、先行き不透明な水門建設ということで確認したいと思いますが、その進捗状況、さきほどどう東保育園のこともありましたけれど、岩科川、那賀川の川沿いの皆さんの不安というのは、今のものでは払拭できないだろうと・・・、これはずっと前にもぼくはやったことなんですけど、やっぱり満潮になると、あそこで手柄杓で水がすくえるような状況もあるわけですね。そういうようなところで、減災という、少しでも時間を稼ぐためには必要じゃないかなということは、ぼくは持論でもっているわけですが、いろいろ今まで議会でも議論されているなかで、私はあまりそれは追及してきませんでしたけど、当局の方として、この問題はどうかとらえているかということをお町長、お答え願いたい。

○町長（齋藤文彦君） 私は、この水門は、はじめから、町長になったときからずっと必要だといっているわけでございます。県の2013年のアクションプログラムの整備方針でも那賀川水門と海岸の防潮堤のかさ上げというのが一対になっていますので。ただ、これが粘り強い構造というのも入っているわけですが、ただ、聞くところによりますと、静岡県の方でL1の津波の高さがちょっと変わるといようなことがございまして、それができないと、かさ上げと水門の話ができませんので、静岡県の素案がまだぼくらの方にきていません。その素案ができてきたら、防潮堤がこのくらい上がって、水門がこういう案になるというように話ができ、町民の皆さんに説明するというような話になると思います。ただ、この水門建設に関しては、議員の皆さんの賛成を得なければできませんので、ぜひ議員の皆さん方も水門賛成の方は声を上げていただきたいなと思うところでございます。

○8番（斉藤 重君） いつもそういうところで止まっているわけですね。だいたい想定というか、どんなのがくるかわからないけれども、ぼくが言うのは、やっぱり5メートルでも、7メートル、10メートルでもね、やっぱりその大きさによってやっぱりそれなりの被害があるわけですね。必ずしもあそこが、15メートル、20メートルくるとは限っていないわけですが、それが、5メートルがきたって、今の状態じゃあ、なめちゃうでしょう。例えば、10メートル以下でも。ということになると、やっぱりそういう安心を与えるためには、どうも前向きでやろうという気構えなら、やった方がいいんじゃないかと思うわけですよ。安心させるために。ただ、避難タワーもいろいろあるけれども、川沿いの向こうの奥の方たちは山に逃げればいいというけれども、あの周辺で、そばの方たちは非常に不安じゃないですかね。そういうことを考えると、やっぱりやるべきことは早く進めるべきだなと。

それで、一番大事なことは住民にうんぬんというより、必要であるということについては、いま議会といたけれども、決まっても議会が反対すればできない的なことだったら、最初に戻るわけでしょう。だから、説得して皆さんに協力をしてもらおうような形、体制を常に考えるべきではないかと思うけれど、その点をもう一度。

○町長（齋藤文彦君） 水門の整備というのは、津波の減災効果、背後住民の避難行動時間の確保、被災家屋の減少ということで、地域の住民の皆さんの生命を守るために絶対必要なものだと思います。

平成24年8月の那賀川水系河口周辺治水対策委員会の答申でも減災、そして景観調和の建設という話が出ているわけですから、県の方からその素案が出てきたら早めにやって、ぜひ水門

建設に向けて進んでいきたいなと思います。

ただ、さきほども申しましたとおり、水門建設の陳情に行くときに議員の皆さんが出てくれないというのでは困りますので、ぜひ賛成の皆さん方、水門賛成の方はぜひ県の方に一緒に行っていただくようになればいいなと思っているところでございます。

○8番（斉藤 重君） いろいろ勉強するなかで、町長、磐田市の方では海岸沿いに700メートルを14メートルかさ上げ的なことも20年かけてやるというんだね。こつこつと。やっぱり命を守るためなんです。住民の。そういう・・・、これは想定は、10分間で津波が押し寄せるということを想定にやるわけですが、そういうところもあるし、また、高知県の南高知市では、600メートル間隔で・・・、あそこは湾曲に長い海岸線ですので、14基の避難タワーを設置したと、現に行動しているところもあるわけですよ。いつくるかわからないという・・・。こういうことは、やっぱりわが町においても危険区域の人たちが少しでも安堵できるような安心体制を作るのがやっぱり減災対策だね。これは大事じゃないですかね。そういうことを大いに勧めます。

次に、大きく2つ、水道事業についてですが、さきほどの町長の答弁を聞きますと、新水源の開発は必要不可欠だと認めておりますが、まず水源池の試掘、湧水量の調査とか、私が投げかけていることについては、そのとおりだといっているわけですが、やっぱりいつもこれは問題というより、いつも思うんですが、最後は検討しますで終わるわけですよ。我われ議会においては、「検討します」は「やりません」に等しいと先輩方から学んでおりますけれども、そういったところで、これはなんとかしなければならぬでしょうと、そこで、改めて言いますけれども、新水源試掘は岩科、道部、三浦地区の安定供給には必要不可欠ではないですか。老朽化が限界にある八木山水源、三浦方面の埋設管とこれは重複しますけれども、付帯施設が昭和30年、40年代のものだと、いつ破損してもおかしくない。これはずっと言われているわけですが、このなかで、出るか、出ないかくらいは確認した方がいいんじゃないですかというのが、ぼくの持論なんですよ。

あとの、出たからといってすぐ工事をぱっとやれというんじゃないですよ。そういうことによっていろいろ対応が変わってくるんじゃないか。例えば、柳原、教習所から岩地までの本管がいつまでもありますが、そこだっていつあれになるかわからない。その対応も施設もすべて、岩科の方もそうですよ。すべて埋設管等・・・。対応が変わってくるわけですよ。旧管への対応が、新しくするためには、極論がでるわけですが、それだから早く確認だけでもやったらどうかという問いですが、町長、その点はいかがですか。

○町長（齋藤文彦君） やっぱり表流水を使うよりも井戸水を使うのが安全だと思って、井戸は必要だと考えているところでございます。松崎としては、江奈の井戸で松崎地区、大沢の井戸で中川地区、八木山の井戸で岩科地区、石部の井戸で三浦地区の供給を図りたいというのが理想のわけですけれども。ただ、温泉を掘るにしても、本当に水が出るとわかっていればいいわけですけれども、それなりのお金がかかって誰かが決断しなければならないのはわかっているわけですけれども、非常に苦慮しているところです。

公営企業委員会でも松崎町は人口が減るんだから、今のままでもう少し頑張ってみたらどうだというような話もあって、非常に苦慮しているところですが、やっぱり安心・安全で清純な水を安定供給するのは町の責務だと思っています。

八木山の浄水場の耐用年数というのが15年ほどあるわけですが、八木山から峰の本管や岩科柳原ポンプ場から岩地、石部までの管路については、もう耐用年数を超えているというようなことで、そのようなことを考えると、やっぱり井戸は掘らなければならないのかなというのを考えているところでございます。ただ、まだ決断ができないというところでございます。これは、ちょっと内部でまた話しながらやっていきたいと思っているところでございます。

○8番（斉藤 重君） 出るか、出ないかということのなかで、前回の12月の質問だったかね。北日本ボーリングの独自調査によると・・・、ということですよ。いろいろ方法がバキュームウェル・・・難しい言葉だね。一つの井戸で5トンも出るという保証的な確信をもった回答もあるわけですね。だから、出る、出ないの確認だけでもやった方がよくはないかと・・・。八木山と石部ね。まず、その前には、成り行き上というか、実態として、まず三浦地区、石部を掘って、石部が出なければ、どうしようもないわけですね。現状の高野山、あそこを頼るしかないということのなかで、そういうことで、はこびとしては、まず石部の水源の試掘が大事じゃないかなと思うわけなんです。そこのところで、それが出るのが決まれば、あとの工事内容もずっと変わってくるわけですが、そこはちょっと担当課の現に担当している課長としての考え方を、その件について、今までずっとの流れのなかで、かいつまんで、ポイントつかまえて言ってください。

○生活環境課長（高橋良延君） 新水源の開発、それに伴う試掘の調査の関係でございますけれども、これにつきましては、やはり町長が新水源の必要性につきましては、町長がお答えしたとおりでございます。水道の安定的な確保対策ということから、また維持管理費、その後の改

修費用の軽減という意味からも新水源は必要だということで、その新水源の場所につきまして、25年のときですか、石部、八木山ということで提案させていただいた経緯がございます。まず、石部の方からということで、着手ということでありますけれども、当然まず石部の方ということは、現在、岩地、石部は岩科の方から、高野水源から水を引っ張ってきているわけですけれども、石部ということで開発できれば、岩科柳原から山を越しての岩地、石部の管路、特に山を越しての管路ですね。そこがある意味管路の更新に対する大きい投資の必要があるというようなメリットもございますので、そこは非常に大きな石部の水源の開発については、メリットであろうかと思えます。

ですから、まず石部を先行して調査をするということは、今後の維持改修費用を考えた意味でも大きな意義があるものではないかと考えています。

- 8番(斉藤 重君) さきほども町長も言っていましたけれども、この表流水についての不安的なことについては、前回言っていますよね。不安だという・・・まして、今回のあれだけの広島あたりの向こうの大変悲惨な自然災害をみるにつけて、あのときに、気圧配置が、前線がもうちょっと南に下がっていけば、わが町、ああいう状況があったかどうかわかりませんよね。これは。大変なことですよ。天気配置図によって、雨の雨量というのはね。ですから、自然災害というのは甘くみない方がいいですね。

議長、追加してください。

- 議長(稲葉昭宏君) 許可します。5分延長します。

- 8番(斉藤 重君) そういうなかで、これを実感としてとらえてやるべきだと思いますよ。表流水は危険だということはいつているわけで、改めて考えよという教訓だと思うんですよ。ぼくは。

そういうなかで、真剣に考えてもらいたい。ただ、前回に町長が、もう一つ言わせてもらおうと、検討委員会で人口減少のなかで、これだけの大金を使う必要があるのかという委員のなかから声もありましたということと2回、前回の質問の回答のなかで聞いているわけですが、この回答は取り上げるようなことじゃないですよ。水について、生活用水については、たとえ1人でも2人でも・・・、地区が例えば50人だったって、50軒だって、その数字は別にして、1人でも住んでいたら、多少遠くたってやらなければならないでしょう。町としては。

そういうことを考えると、ああいう言葉は当てはまりませんよ。金と命を秤にかけてるでしょう。それは検討委員会の発言なんていつて取り上げるべきじゃないとぼくは思って聞いてい

ました。今回もそういうことをふまえてちゃんと前向きに、皆さんに相談するところは相談するでしょうけれども、前向きに「検討する」じゃなくて、努力するとか、言葉を変えてははっきり言ってもらいたい。どうですか。

○町長（齋藤文彦君） 町民の皆さんが蛇口をひねったら水道が出るのが当たり前ということで、新水源をはかるのもいろんな改修費用と維持管理費を少しでも抑えるために水源をはかりたいということでございます。この場でやるとかなんとかということは言えませんが、これは誰かがやらざるを得ないと思っていますので、誰かが決断しなければならないので、時期にきたら議会の方に諮りたいと思っています。

○8番（斉藤 重君） 一応まとめに入ります。

町長、そういうことで、さきほどから私が言う避難タワーもしかり、水道施設もしかりですよ。これは将来的に投資ですよ。と思いますよ。さまざま町も幼稚園問題とか、いろいろ問題を抱えていますが、おのおのがやっぱり立場立場で、どちらを先にやるかは別の問題として、やらなければならない。インフラ整備的なものについても命を守る的な問題については、当然なこと、やらなければならないですよ。

いま町長がちょっと言った「誰かがやらなければならない」、自分がやるつもりでやってもらいたい。僕は。そう思いますよ。

そこで、まとめですが、最後に町長に私どもからのある意味で質問ではありませんけれども、今回、私の提案事項は、減災対策と水道事業については、将来的に住民の命を守り、安心・安全を維持するために絶対必要な事業であり、投資的経費でむだ使いではない。これははっきり断言できます。

現職で事を成すためには、多くの決断が求められる、必要です。必定ですよ。行政トップの評価は結果を出すことが第一と私は思っております。信念をもって決断して行動することを期待して私の質問を終わります。

○議長（稲葉昭宏君） 以上で斉藤重君の一般質問を終わります。

暫時休憩いたします。

（午後 1時23分）